

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	良く なっている	タクシー運転手	お客様の様子	・乗客からは不景気な話を聞かない。建設会社の設計者などは、仕事はあるが職人が不足している状態であると話している。
		その他サービス [自動車整備業]（経営者）	販売量の動き	・36か月連続で増収増益が続いている。
	やや良く なっている	一般小売店[書籍]（経営者）	単価の動き	・当地域ではプレミアム付商品券が流通しており、客単価が非常に上がってきている。また、その効果により定価品やギフト商材が動いている。
		一般小売店[医薬品]（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比103%となっており、それに伴って売上も前年比104%である。今の状態のままであれば、景気は上向きである。
		一般小売店[医薬品]（経営者）	来客数の動き	・前月の落ち込みの反動からか、今月は来客数が大幅に増加している。一時的な落ち込み分はしっかりと埋め合わされており、前年比の数字も全体的に改善している。景気は緩やかな上昇基調を維持しているのではないが、ただし、当店のすべての客層に活況がみられているわけではなく、まだら模様で改善しているように見受けられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・周辺の競合状況に変化はないが、全体的な来客数、売上共に増加傾向にある。また、客単価も上昇しており、価値ある良いものを買う傾向が見受けられている。反面、買上点数はさほど伸びていない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・客単価及び1品単価は多少落ち込んでいるが、来客数が増加した分だけ買上点数も増加しており、トータルとして売上は若干増加している。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・来客数の伸びに伴い、販売点数も伸びが良くなってきている。また、客単価に変化はないが、季節の変わり目でもあるため、生鮮食品を中心に商品の動きが良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・10月の来客数は前年比4ポイント増加、前月比でも3ポイント増加と改善しており、順調に推移している。カウンター商材である、コーヒー、ドーナツが大きく貢献している様子である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客はようやく冬支度を始めているようである。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・秋の訪れが早く気温も後押しをしてマーケットが早く動いているため、コートを含めた秋物商材が動いている。また、前年と比較しても来客数が違ってきており、秋口は順調に推移している。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・客の動きが活発になり、来客数が上向きになっている。若干ではあるが客単価も向上してきている。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・今月は売上、来客数共に好調である。客の会話の内容からもそれほど悲観的な話は出ていないので、景気は良くなってきているのではないが。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・繁忙期であり、来客数が前年同時期をわずかに上回っている。ただし、これは天候などによる影響であり、景気が上向いている実感はない。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・プレミアム付旅行券などの助成により、好調な状態を保っている。	
	観光名所（職員）	単価の動き	・予約状況、来客数共に、前年並みもしくは数%の増加となっている。また、客単価も上昇しており、客の財布のひもが多少緩んできているような売れ方をしている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・様々な経済指標が出ている割には、地方や中小零細企業にはほとんど恩恵が行き渡っていないのが現状である。本当の意味での消費の回復には時間がかかっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・天気に恵まれており、イベントの効果もあって来客数はまあまあである。ただし、食料関連の店舗においては商品の価格変動が落ち着かず伸び悩んでいる。また、身の回り品を扱っている業種においても、店によって差はあるものの好不況がまだら模様であり、今一つというところである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・消費者から商店街が見放されている。
商店街（代表者）		お客様の様子	・期待した9月の大型連休も盛り上がり欠けており、お盆以降は消費者の節約志向が続いている。	

一般小売店 〔酒〕（経営者）	単価の動き	・前年同月と比較して、売上が若干増加している。
一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・寝具関係は、相変わらずニッチ商品の需要が少ない。また、利幅の大きいふとん製作やカーテンの受注量も、極めて少ない状態である。
一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・低価格器材の販売量は上向いているものの、高額器材は新型商品などがないため、販売量が伸びていない。そのため、全体的な売上は変わらない状態である。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・これまで売上の構成比の多くを占めてきた中間顧客層の購買力に回復の兆しがみられない。来客数の落ち込みよりも単価の低下が顕著であり、中間顧客層が低価格にシフトしつつあることがうかがえる。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税後の買い控えの反動による売上増加は落ち着いてきているが、今月も売上はほぼ前年並みで推移している。また、紳士服の好調も継続しており、低調が続いていた婦人服もニットに動きが出るなど回復の兆しがみられている。一方、催事における物産展の売上の低迷が続いている。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・秋冬になってもアパレルの動きが良くない。
百貨店（買付担当）	お客様の様子	・売り出しにおいても客は慎重であり、セール品でも納得がいくまで購入には至らない。一方で新作は順調に稼働しており、二極化が継続している。
百貨店（経営者）	販売量の動き	・秋物から冬物防寒衣料の動きが出てきており、前年と比較しても動きに変化はない。ただし、来客数は微減しており客単価の上昇によって売上をカバーしている感がある。
百貨店（経営者）	お客様の様子	・天候の安定と気温の低下とともに、シーズン物の衣料品は相応の動きがみられている。反面、全体的な来客数は減少傾向が続いており、購買動向に力強さはない。そのため、必要なものだけを購入するという流れに変化はない。
スーパー（経営者）	来客数の動き	・惣菜の販売量は増加しており好調であるが、来客数は微減している。
スーパー（経営者）	単価の動き	・10月の平均単価は前月並みである。来客数は前年を上回ったものの、買上点数の伸びが足りていない。また、地域格差も表れており、全体としては変わらない状態である。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・商圈内に競合店がオープンした影響が出ている。ただし、地元イベントによる集客の効果が持続しており、全体としては変わらない状況である。
スーパー（営業担当）	来客数の動き	・前月の既存店の売上は前年比102%と前年を若干上回っている。しかし、内容としては買上点数及び客単価が上昇したことによるものであり、来客数は前年比100%とほぼ変わらない状態である。スーパーマーケットは競合店の出店が加速化するなか、既存店の改装、スクラップ&ビルドによって来客数を維持して売上を上げているのが実情であり、景気回復によるものではない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きに変化がない。上向き、下向きのどちらでもなく変わらない状況である。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・夏以降から売上、来客数共に安定している。
コンビニ（店長）	単価の動き	・客の6割は価格の安い商品に手が伸びる傾向にある。残りの4割の客は徐々に質の高いものを買うようになってきているが、大半の客は価格で商品を選んでおり、二極化が拡大の傾向にある。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・冬季に向けて店内を一斉改装しており、各部門に提案型陳列を導入している。しかし、ある程度の反応はあるものの、前年と比較して販売量に大きな変化はみられていない。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ニットやコートなど、例年であれば動き出すはずの防寒衣料の動きが非常に鈍い。客単価、販売量共に例年を下回っている。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年より早くランドセルの受注があり、販売量も増加している。
衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・この1年半の間、3か月前及び前年同月と比較しても販売量は前年を下回っており、景気は全く変わっていない。

家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年に比べて10～20%落ち込んでいる。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売は消費税増税後の反動減が解消されつつあるが、中古車販売、整備在庫が減少傾向にある。
乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・軽自動車業界は低迷している。また、他の販売会社においては、業績のばらつきが散見されている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・個人客の販売量が伸びていない。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・客からの受注品の納品状況をみても、特段に良いというわけではなく、販売量はさほど変わっていない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・9～10月は地元農家の収穫期である。イベントなどにより一時的に来客はあったものの、飲食店の状況は芳しくない。また、店頭においては定番商品の動きがまずまずであるが、順調とは言い難い。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・9～10月からの値上げにより前倒して秋冬物の注文が入ったが、一時的なものであり、その後は静かになっている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・消費量が大きい復興関連の軽油販売が順調であるが、灯油の消費が前年を下回ってきているため、相対的にみると横ばいで推移している。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・販売量に大きな変動はない。また、変動する要因も見当たらない。
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・割引クーポンなどを発行すると来客数が増えるという状況は変わらずに続いており、景気は上向きでも下向きでもない。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・東日本大震災後の2年間は復興支援などにより多くの客が来てくれていたが、その後は客足が遠のいている。また、今は北陸ブームであり更に輪をかけて厳しい状況である。ただし、今月は我々の業界にとってトップシーズンである。企業などの大きな団体客は少ないものの、フルムーンなどの募集ツアー客が多くみられている。来客数は伸びないがほぼ満室状態となっており、館内にも多少の明るさがみえている。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・繁忙期を迎えて週末は予想どおりに満館の状態が続いている。ただし、団体客が減少しており、その分を上昇した単価でカバーすることによってかろうじて売上を維持している。
都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・ホテル内レストランのリニューアルに伴い、主力商品の価格をやや値上げしている。単価の上昇を目指しているが、客は低価格帯の商品を選んでいるため、なかなか思惑どおりにはなっていない。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・個人利用、法人利用共にほぼ前年並みで推移しており、来月以降の予約も同様の状況である。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・東日本大震災復興関連が少なくなってきたおり、宿泊部門の稼働が若干落ちてきている。また、宴会部門も前年を下回っているが、レストラン部門はプラスとなっている。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・3か月前と同様に、個人旅行も団体旅行も前年並みに推移している。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内の宿泊は前年並みとなっており、先行の受注状況もほぼ前年どおりで推移している。ただし、海外旅行については控えている様子が見える。
タクシー運転手	来客数の動き	・ほとんどの客が短距離の利用であり、メーターを確認して目的地直前で停車の指示がでる。このような状態がずっと続いている。
通信会社（営業担当）	単価の動き	・各種物価の値上げは一段落したが、価格を上乘せしたものの他に、メーカーが予告無く容量を減らし外観上はそのまま価格を据え置くなど、どれもこれも実質上の値上げとなっている。一部の企業ではベースアップがあったようだが、全体的な底上げにはなってはならず、景気は横ばいである。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲について、前向きな印象がうかがえない。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・首都圏のように高額商材が売れるような良い話は無く、コスト削減の要求が多い。

	遊園地（経営者）	来客数の動き	・三連休の雨や新水族館の新規オープンの影響はあったものの、来客数は前年を若干下回る程度で推移しており、単価も底堅い動きとなっている。
	競艇場（職員）	来客数の動き	・売上、来客数共に、3か月前と変わらない状況である。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年並みに戻ってきている。しかし、売上は横ばいのままであり、良くも悪くもない状態である。
	美容室（経営者）	単価の動き	・新しいメニューや販売物に対して、客の財布のひもが固い。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・七五三の着付けで忙しくなる時期であるが、年々予約数が減ってきている。今は写真館で着付け込みの撮影が安くできるため、美容業界は押され気味である。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・仕事の話があっても、決まるまでに2～3か月かかるか、中止となる状況が続いており、なかなか景気が上向きにはなっていない。
	その他住宅[リフォーム]（従業員）	来客数の動き	・塗装工事の進捗が良好である。受付件数も前年実績より増えている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年と比較しても、買物需要が非常に少なくなっているように見受けられる。また、商店街の通行量はあまり変わらないものの、購入には至っていない。
	一般小売店[医薬品]（経営者）	単価の動き	・10月は季節的に非常に過ごしやすく病気になる方は少ない。また、風邪をひいても容量の小さいものや価格の安いものを購入するため、客単価が前年より8%ほど減少している。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・10月下旬に入ってから、客の消費の動きが停滞している。来客数はそれほど変わらないが、販売量の動きがやや鈍くなってきている。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店の新規出店があったわけでもないのに、来客数が連続で前年比を下回っている。キャンペーンなどの販促活動は続けているが、効果はあまり出していない。特に、サラリーマン中心のお昼のお弁当類の売上がかなり落ち込んでいる。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は晴れて穏やかな日が多かったが、8～9月の天気の良い日と比べても客の動きにそれほどの変化はなく、今月も少し悪いような状況である。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・スピードくじなどの本部施策により来客数は増加しているものの、客単価は低下している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、来客数の減少分をカバーできていないため、売上は減少している。人口減少だけにとどまらず、労働力の減少も相まって、全体的に消費が増える構造にはなっていない。
	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・エリア内において競合チェーン店の出店が多く、来客数にも影響が出ている。
	コンビニ（店長）	競争相手の様子	・夏に比べて売上は減少している。また、競合店の影響も徐々に出てきているが、他の店舗の売上は順調に推移している。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・秋物商材の立ち上がりがあった反面、10月に入ってから気温上昇により冬物商材のニーズが減少しており、苦戦している。
	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・お買い得な商品を購入する客が、前年から徐々に増えてきている。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売台数は前年比70%、前々年比60%となっている。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・土～日曜日の来客数がかかなり減っている。
	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・通常であれば買換えを検討するような高額修理でも、買換えではなく修理を選ぶ客が多い。商談自体が少なく、新規来客数は前年比70%と閑散としている。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・今月は復興住宅への入居者がたびたび来店しているが、多くの客は消費意欲に乏しく、最小限の買物をする傾向にある。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数、買上点数共に減少している。	

	その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月はアルコール類の販売量が伸びていない。飲食店の話では、主な移動手段が車という地域柄、飲み会などには出るものの代行やタクシーの出費までの余裕がないのか、ノンアルコール飲料を飲む客が多いと聞いている。実際にノンアルコール類の販売量は良いものの、単価の高いアルコール類が伸びなければ状況は厳しい。	
	その他専門店 〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・行楽シーズンで各地のイベントに足を運んでいるのか、来客数が減少している。	
	高級レストラン （経営者）	競争相手の様子	・市場に仕入れに行っても本マグロが売れていない。本マグロを扱える店はある程度高級な寿司屋や料理屋に限られているため、景気が良くないということがうかがえる。	
	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休も今一つであったが、連休の後ということもあって10月もかなり低調な雰囲気である。ランチタイムやディナータイムの来客数も減少しており、大変厳しい状況が続いている。	
	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・景気が良くなっていないので、来客数の動きにもむらがある。多い時と少ない時の差が激しく、全体的に客の数が少ないように見受けられる。	
	一般レストラン （経営者）	お客様の様子	・米と果樹の収穫期が重なっており、農業従事者の多い当エリアでは外食をする時間が取れないのか、特に夜の人の流れが鈍くなっている。景気が良ければ仕出し弁当などの注文があるが、それもあまり無く、余裕の無い人が多いようである。	
	都市型ホテル （スタッフ）	単価の動き	・計画通りに推移している。ただし、前年は大きなイベントが複数あったが、今年は小さなイベントばかりのため、宿泊が絡むなどのホテルの収入に結びつくようなものは少ない。	
	都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・春先から上向き傾向が続いていたが、前月から徐々に下降してきている。今まで販売量は前年を上回っていたが、今月は下降幅が更に大きくなったため、前年を下回っている。	
	旅行代理店（店長）	販売量の動き	・復興特需に陰りがみえ始めている。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・客の乗り控えがますます目立ってきている。	
	通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・中国経済は減速傾向にあり、米国の大手金融機関の破たんの経験を踏まえて設備投資を控えている企業が増えている。また、安い賃金体系が問題であるのか製造業の人手不足が続いている。	
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・映像関係の新規契約者数が大幅に減少している。一時期横ばいであった解約者数も再び増加傾向にあり、通信関連も解約者が増え始めている。新規契約者数のみは微増であるが、全体的に落ち込みが続いている。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・体育の日の3連休が天候に恵まれず、前年と比較してもかなり悪い状況になっている。	
	住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・受注までに時間を要しており、計画数値を下回っている。そのため、受注量に伸びがみられていない。	
	悪くなっている	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月はとにかく重衣料の動きが悪く単価が伸びていない。また、セット率が低いために客単価も上昇しない状況である。さらに、新規客の来客数も相変わらず伸び悩んでおり、売上は前年よりも大きく落ち込みそうである。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・とにかく来客数が少ない状況であり、買い控えも多くみられている。
企業動向 関連 (東北)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・今年のももは天候に恵まれ品質が良かったので、一週間ほど早く出荷することができている。そのため、収入が前年の2割程度増加している。
		出版・印刷・同 関連産業（経 理担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前は売上が前年比で5%ほど下回っていたが、今月は前年比で10%の伸びを示している。
	変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・相変わらず米価は低調である。ただし、転作した玄蕎麦は大産地の北海道で不作だったこともあり、価格が上昇している。
		食料品製造業 （経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は9月の大型連休のようなイベントが特にないため、来客数は前年同様の動きをしている。

	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・主力商品の販売量減少が継続している。新商品発売により減少分のカバーを図るも、販売状況は芳しくない。
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・毎月のことであるが、店頭売行きが良くない状態が続いている。
	木材木製品製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の価格低迷により、収益性が悪い状態が続いている。
	出版・印刷・関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今月は、同業者は皆動きが悪い様子である。
	土石製品製造販売(従業員)	取引先の様子	・取引先の話聞いても、休日出勤でも代休扱いになったり、残業代も時間制限があったりと厳しい状況から抜け出せていないようである。
	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・依然として受注量の改善がみられず、横ばい状態が続いている。
	電気機械器具製造業(営業担当)	取引先の様子	・多くの取引先は順調に受注が入っている様子である。
	電気機械器具製造業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・半導体価格の低下が業績に直接影響を与えている。ただし、給与に対してはまだその影響を受けていないため、今のところ状況に変化はない。
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・降雪前という季節的なこともあるが、民間の小口工事が増加している。
	建設業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・受注量に多少の減少傾向があるものの、価格は落ち着いた状況が続いている。
	輸送業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・全体的な物量は悪くない。しかし、一部の荷主からは料金改定の要請を受けている。
	通信業(営業担当)	取引先の様子	・顧客のなかには同業他社へ乗り換えるケースも出てきており、予断を許さない状況である。
	通信業(営業担当)	取引先の様子	・投資よりも経費削減が進んでいる。
	金融業(営業担当)	競争相手の様子	・中国の景気減速懸念からの株価の落ち込みにより、投資信託の動きが鈍い。
	金融業(広報担当)	取引先の様子	・原油安の好影響を受けている運送業者はいるが、全体に波及しているわけではないため、あまり業績に変化がみられていない。
	広告代理店(経営者)	取引先の様子	・広告物とのセットでの受注が少なくなってきた。分離発注の傾向が明確化しており、その分売上が減少している。
	広告代理店(経営者)	受注量や販売量の動き	・前年の落ち込みからはやや持ち直している感があるが、一昨年並みにまでは届いていない。また、3か月前と比較しても、大きな動きはみられていない。
	公認会計士	取引先の様子	・建設関係は利益を計上している会社が多い。小売関係は相変わらず売上の前年比が減少しており、利益が減少傾向の会社が多い。3か月前と比べても大きな変化はない。
	その他非製造業 [飲食料品卸売業](経営者)	受注価格や販売価格の動き	・特売商品や他より安い商品などの販売量はすこぶる良いが、通常の定番商品は値上げが多いせいか、なかなか動きが鈍い状況である。
やや悪くなっている	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・景気は確実に下降しており、受注量に影響している。
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・官庁からの復興関連工事の発注が進んでいない。
	広告業協会(役員)	それ以外	・地元の広告業界は中央の悪化と比べてそれほど悪くはなっていない。ただし、流通業界が苦戦しており、今後の引き合いが少なくなってきた。また、地下鉄の新路線開業に伴うオープニング広告も、予定の8割程度の集稿となっている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・製造業の2次下請において、コストダウンの要請が厳しくなってきた。
	その他非製造業 [飲食料品卸売業](経営者)	取引先の様子	・景況感が出やすい飲食店の状況が上向いていない。消費者の選択する目が厳しくなっており、めりはりのある消費傾向がなお一層強まっている。
	その他企業[企画業](経営者)	受注量や販売量の動き	・広告宣伝関連の媒体が大幅にネットに移行しつつあるため、当社が得意としてきた印刷物の企画が激減している。当社ではネット媒体の企画も可能であるが、企画と制作の一括発注となるため受注が難しい状態である。
悪くなっている			

雇用 関連 (東北)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・世の中が復興に向けて動き始めている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・平成27年9月の新規求人数は依然として好調を維持している。新規求人倍率は2.26倍と今年度3度目の2倍台となり、好調である。9～10月にかけても、求人は出しているが応募者がほとんどこないという人手不足の状況が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比較して、新規求職者数、有効求職者数は微減し、新規求人数並びに月間有効求人数は微増している。また、有効求人倍率はこの1年の間0.9台後半～1.1台で推移しており、雇用が落ち着いているという状況に大きな変化はないものの、求職者数の減少に比べて求人数の増加が目立っていることに、3か月前と比較して明るい印象を受ける。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・2016年3月卒業生に向けて採用活動をしている企業の動きに着目している。例年であればこの時期に採用数に満たない場合は、採用活動を終了して中途採用や来年の採用に切替えるのだが、今年は新卒採用活動を継続している企業が多い。特に外食産業、塾、建築土木業、小売業の企業はまだ採用活動を継続している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・人材派遣業においては、新規登録者の伸び悩みもあり、景気が上向きになっていないといえない。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・採用困難を理由として、閉店、撤退、業務拡大の抑制の判断に至る企業が散見されており、景気に悪影響を与えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・小売業、サービス業において人手不足感はあるものの、積極的に採用するには至っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・復興需要や定年退職者の増加などを背景に人手不足である企業は多いが、求人側と求職側のミスマッチが生じている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比較して新規求人数が増加しているが、その増加率はここ3か月間で毎月減少している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人状況に変化はない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・6月や8月の新規求職者数は前年と同程度であったが、それ以外の月では減少している。また、全体の4割を在職中求職者が占めている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は増加している。しかし、有効求人数は、前年と比較しても3か月間連続で小幅ながら減少している。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・製造業から求人が出ているが、非正規社員の求人が多い。反面、派遣会社には人が集まらず苦勞している。
やや悪く なっている	人材派遣会社（社員）	それ以外	・新規登録者数が減少傾向にあり、改正派遣法の迷走で受注量も鈍化している。結果として損益分岐が上昇し、9月の単月決算は8月に連続して赤字となっている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新3本の矢を含めて景気浮揚策が公言されているが、首都圏からの地方への金の流れが鈍いのが現実であり、地方創生政策が有効に働いていない状態である。そのため、地方においてはその実効性を上げていくことが求められている。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求職者数は、事業主都合離職者の減少により引き続き減少している。ただし、有効求人数が労働者派遣業などの求人減少により減少幅が大きくなっているため、有効求人倍率は4か月連続で減少となっている。	
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の製造関係事業所から、中国経済の減退により受注量が減少しているという話を聞いている。また、介護事業所や福祉サービス事業所からは事業縮小の相談を受けている。	
悪く なっている	-	-	-	